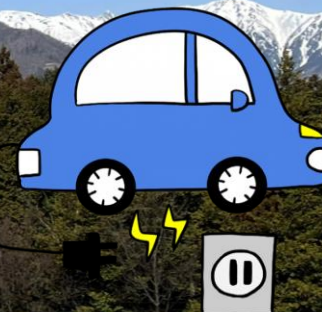
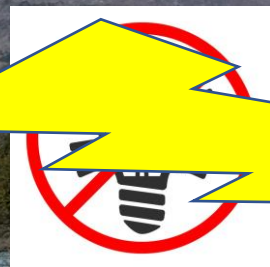


福祉避難所としての 機能強化

長野県 救護施設 順天寮

事務長 小出健一

事業のテーマ 施設の状況



企画から実行まで

電気自動車と給電器の選定

- 候補として日産リーフと日産サクラ



- 航続距離と納期時期
- 自施設での目的
- 外部給電器はニチコン製



各種補助金の申請・発注

- 日本財団機器整備事業
- クリーンエネルギー自動車導入促進補助金
(車輦用)
- クリーンエネルギー自動車導入促進補助金
(外部給電器用)

企画から実行まで

200V 充電設備工事

- 車庫の柱に、電気自動車を充電するコンセントを新設
- 充電口に雨が入ると故障の原因になるので、車庫での駐車が良い。



納車・入魂式

- 伊南福祉会では、初めての電気自動車の導入であり理事が参加して簡単なセレモニーをおこないました。



車輛充電訓練・給電訓練



充電カードの申請

- 日産「ZESP3」というカードを申請。
- 法人にクレジットカード契約なく、新規契約をおこなった。
- 法人の「クレジットカード取扱規定」を作成しました。



社会福祉法人 伊南福祉会クレジットカード取扱規程

〔 令和4年12月 1日
伊南福祉会訓令第5号 〕

(目的)

第1条 この規程は、社会福祉法人 伊南福祉会（以下、「本会」という。）のクレジットカードの取扱に関わる事項について定め、当該カードの使用を明瞭かつ適正におこなうことを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において「法人カード」とは、銀行及び信販会社又はその子会社（以下「カード発行会社」という。）が法人に対して発行するクレジットカードをいう。

(管理責任者)

第3条 法人カードの保管管理を行うために、管理責任者を置く。

2 管理責任者は、会計責任者又は出納員をもって充てる。

(管理責任者の責務)

第4条 管理責任者は、カード発行会社から法人カードを受領したときは、経理規程第28条の2の規程に基づき管理するとともに、法人カードを使用とする者（以下「カード使用者」という。）に対し、法人カードの使用の承認と法人カードの貸与を行うものとする。

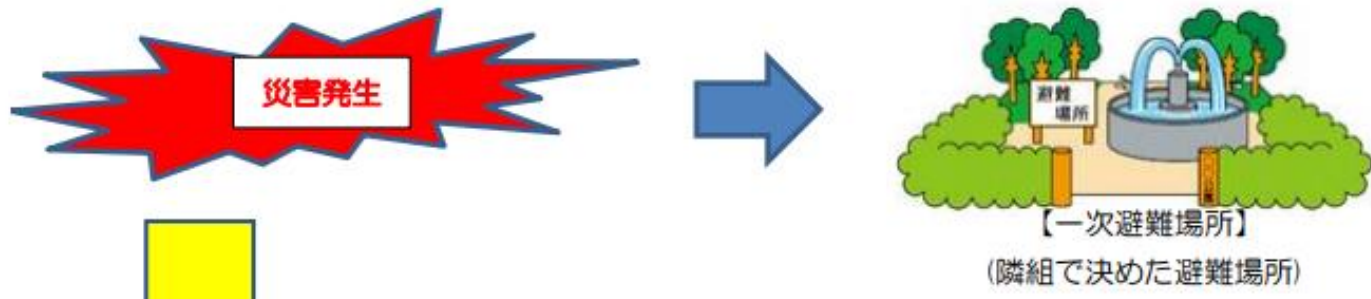
(法人カードの使用範囲)

第5条 法人において法人カードを使用できる範囲は、法人の業務遂行するうえで、法人カードを使用しなければ支払いが行えない物品の購入、役務の提供等に限るものとする。

(カード使用者の責務)

福祉避難所開設 運営訓練

- 福祉避難所運営マニュアルを作成
- 地元、駒ヶ根市の福祉避難所の現状について
- R3年5月から 直接避難
- 開設、運営、閉鎖までのシミュレーション
- 今後の課題



今後の課題等

- 毎年の福祉避難所開設運営訓練。
- 物資、機材、在庫数の確認、更新
- 地元（南割区、福岡区）の要配慮者で順天寮に避難したい方の事前把握 避難行動要支援者名簿
- 避難希望者との地域調整会議 個別避難計画作成
- 駒ヶ根市主導での福祉避難所会議への参加
- 地域防災会議への職員参加
- 建て替え時には、避難所としての一層の期待や役割がある



個別避難計画

個別避難計画 とは？

【関連動画】

24分ほど

[災害時ケアプラン実践事例映像 ～モデル地区\(富士市森島区\)～ - YouTube](#)



- 市町村にR3から5年ほどで、作成する努力義務がある。
- 要支援者のなかでも、優先順位をつけ進める。
- 「災害用ケアプラン」と考えられている。
- 平時の介護、障害サービスと、災害時の支援をつなげるツール。
- 支援者が作成する方法と当事者自身が所定の用紙に記入し作成する、2つの方法がある。
- 事業者（ケアマネージャーや相談支援専門員）が作成する場合は、1件、7,000円の作成補助がある。
- 課題（対象者多い 個人情報観点 地域との連携 行政のやる気）もあり、作成が進んでいかない。
- 駒ヶ根市は、危機管理課と福祉課が今後、どのように進めていくか検討段階とのこと（R3.11月）

停電時の福祉避難所運営を想定した給電訓練

【条件】

- ・リーフ 40kwh から電気を取り出し、停電した避難所へ 3 日間電気を供給する。
- ・気象条件として、長野県の 3 月の最低気温 0°C から日中 10 度ほどで訓練。
- ・福祉避難所へ 10 名の方を、受け入れた想定。
- ・一日、食事を 3 食提供。（簡単に温めたり、お湯を沸かしたり、簡易調理）
- ・暖房機器は、石油ファンヒーターを、1 日に 10 時間 2 台使用。電気毛布 5 枚を 1 日に 10 時間使用する。
- ・情報収集として、ラジカセ、テレビを使用。
- ・各自のスマホ、携帯電話を充電するコーナーを設けた。
- ・先駆的シェア事業として、ポータブル電源を 2 台新規購入。予備電源、延長コードが届かない場所での電力供給として、1 日に 1 回の充電をおこなった。

電気供給図





給電訓練 電気自動車から3日間避難所に給電をした想定訓練

電気自動車（日産リーフ 40kwh 2022年製）

100%充電 この時点での車輛ディスプレイの走行可能距離 245KM



走行可能距離

	1日目	2日目	3日目
走行可能距離	175KM	108KM	42KM

電気機器	目的	1日の使用時間等	3日間での使用時間・量
LED照明 100W	電灯として	12時間	12時間(18時～6時)×3日 合計：36時間
電気ポット 700W	湯沸かし	13ℓ	毎食4.4ℓ 使用×9食 合計：39ℓ
電子レンジ 700W	温め調理	温め10回	毎食温め10回×9食 合計：90回
ホットプレート 1350W	簡易調理	調理3時間	毎食1時間使用×9食 合計：18時間
大型石油ストーブ 950W	暖房	10時間	10時間/日×3日間 合計：30時間
小型石油ストーブ 20～650W	暖房	10時間	10時間/日×3日間 合計：30時間
電気毛布 55W～75W	暖房	10時間×5枚	10時間/日×3日間×5枚 合計：30時間
エアーマット ?	寝具	10台(1日目のみ)	10台×設営時 合計：10台
テレビ 48W	情報収集	6時間	6時間/日×3日間 合計：18時間
ラジカセ 13W	情報収集	12時間	12時間/日×3日間 合計：36時間
スマートフォン 10W	情報収集	3台	1回/日充電×3日間×3台 合計：9回
タブレット 20W	情報収集	3台	1回/日充電×3日間×3台 合計：9回
ポータブル電源 1000W	予備電源	1台	1回/日充電×3日間×2台 合計：6回
ノートパソコン 30W	避難所運営	5時間	5時間/日×3日間 合計：15時間
プリンター 1～16W	避難所運営	5時間	5時間/日×3日間 合計：15時間

【考察】

- ・電気機器を多用したが、3日間は電気機器の使用を続けられると感じたが、3日目まで使用すると、後続距離不足で車両が充電ステーションまで移動できなくなることが予想できる為、2日目に余裕をもって車輛充電をおこないたい。
- ・停電時には車輛充電ステーションがどこにあるかと、使用できるか必ず確認したい。

他の施設で取り組む為のメッセージ

- この先10年後には、電気自動車が更に普及していくと思われる。福祉施設にも同じように電気自動車を使っての送迎が進むものと思う。施設に大型の発電機があれば、停電時に施設内への電力供給ができるが、災害時には想定外のことが起きる。何らかのトラブルで大型発電機が使用できない状況も考えて、移動できる電気自動車からの電力供給があれば、施設内の最低限必要な電気機器を動かせるようになる。「同じ災害はない」災害に合わせて臨機応変に対応できるように、準備することが自分の施設を守ること、災害時の地域福祉への貢献ではないかと考える。